

スペイン人の 義理人情

いとうとよお
伊東豊雄
建築家

先日、バルセロナにある大学の建築学部から卒業セレモニーでのレクチュアを依頼された。卒業生一人一人に卒業証書を手渡した後、全学部生に向けてスピーチをした。卒業式という格別な雰囲気もあって、印象深い経験であった。しかしもつと印象深かったのは、その日の夜に行なわれたディナーパーティーであった。現地の日本企業が、大学の学長をはじめ、私のスペインでの友人約50名を招待して、ささやかなパ

ーティーを催してくれたのである。ほとんどがスペイン人で、そのなかに私の仕事の元クライアント、ラモン・セラ氏がいた。私はいま、バルセロナで国際見本市会場の設計に携わっている。これは延べ面積約二十数万㎡に達する都市的スケールのプロジェクトで、展示ホール、オーディトリウム、ホテルとオフィスのツイン・タワー等のコンプレックスである。2002年の国際コンペティションで私たちの案が採用された。ラモン・セラ氏はコンペティションの際、最も強く我々の案を推してくれた一人で、その後クライアント側の責任者として、信頼関係を築いてきた。ところが2年前、彼は政府からの要請で道路公団総裁に任命され、転職してしまった。

しかし、彼との交友が深まったのは、むしろ転職後である。訪れるたびに食事に誘ってくれるし、私のゴルフ・クラブも彼の車のトランクに納まったままである。短期滞在なので連絡せずに訪れたことを知ると、本気で怒りのメールが送られてくる。スペインの人々は血が濃いと聞いていたが、それ以上に「義理人情」をととても大切にしている。日本では滅多に感じない人情の深さをスペインではしばしば痛感する。この夜のパーティーでも、突然スピーチを依頼され、そんな話をしたら、セラ氏は涙ぐんでしまった。このような義理や人情を大切にしている人々の力添えで、スペインでのプロジェクトは増える一方である。